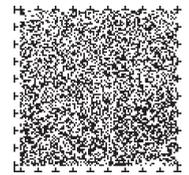


国際協力機構（JICA）中国中西部 リハビリテーション人材養成プロジェクト 中間レビュー出張報告



赤居 正美

私はこれまで国際協力機構（Japan International Cooperation Agency：JICA）からの協力委託を受け、何回か中国訪問を繰り返していますが、今回もまた8月23日～9月3日にかけて中国出張となりました。ただし、夏休み時期の出張は患者や他の方々にとっては休暇と思われやすく、本来の夏期休暇取得は結局3日間のみとなってしまいました。

このJICA「中国中西部リハビリテーション人材養成」プロジェクトは、遠隔教育のネットワークを作ってリハビリテーション技術者育成の地方展開を図ろうというもので、2008年4月から5年間にわたり実施されます。これまでに2009年4月から遠隔講義が開始され、担当部署の研修など遠隔教育を支える体制づくりも進行していますが、ちょうどプロジェクト開始より2年半の時点となったので、中間レビューを行うものです。プロジェクトの進行状況の確認と今後に向けて問題点の抽出・対応を協議し、その目的に沿って、当初策定したプロジェクト計画書の改定、関連する覚え書き（ミニッツといます）の署名などを行いました。

計画では陝西省、重慶市、広西チワン族自治区の3箇所をモデル地区にし、まず省レベルの人材を養成し、次いで下位への浸透を図るとの戦略をとっています。現地に派遣されている専門家への助言、中国リハビリテーション研究センターの幹部との面談を行うと共に、地方の対象3サイト、すなわち陝西省西安市、重慶市、広西チワン族自治区南寧市の関係者からのヒアリングと協議を行うためにこれらの3都市を順次訪問しました。

この時期の訪問の課題としては、今後各省の中核となるリハビリテーション人材養成の具体的方法、インセンティブ、達成目標について、などが挙げられました。今回の訪問を通じて各専門領域で担当者との面談を繰り返したのですが、臨床課題の即席解決を求める中国側の傾向が未だもって非常に強いこ

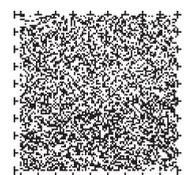
とを改めて痛感しました。自身の知識、技術をもとに臨床問題を自ら解決してもらいたいのですが、第三者（特に外国人専門家）に聞けば、常に解決策が提示されるという態度は非常に気になるものであります。

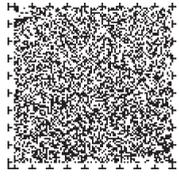
また遠隔教育機器、IT機器を使いこなすにあたり、北京側が1～2回の技術研修を済ませて、ある意味義務を果たしたというばかりの姿勢を取りがちなのも気がかりになった点です。3サイトの現場では機器を十分に使いこなしていないばかりか、むしろ一部を使えなくしてしまっているにもかかわらず、悪いのは先方との態度は問題であり、以降の改善が強く求められる部分と思われました。

北京にある中国リハビリテーション研究センターは病院部門（中国唯一の三級甲等リハビリテーション専門病院である北京博愛病院）、研究部門（リハビリテーション情報研究所とリハビリテーション技術研究所）、教育・訓練部門（中国各地の主として省に設置されているリハビリテーション施設の勤務者に対する短期研修を行うリハビリテーション学院）の三部門からなります。その教育、情報部門が中心となって本プロジェクトを実施しているわけですが、2年ぶりの訪問に至る間に病院には新しい外来棟が完成しており、首都医科大学の臨床課程を担う教育部門では義肢装具士の教育コースも始まっておりました。

北京以外の3都市はどれも過去に訪問した場所ではありましたが、いずれも道路の渋滞が際だち、新しいビルの林立などハード面での発展には目を見張るものがあります。しかしホテルのフロントでのクレジットカードの処理などソフト面は未だしの部分が数多くありました。これもなかなか難しいところでしょう。

これまで何回もJICAの仕事には参加していますが、人使いはど





んどん荒くなり、今回も会議を終了したのは午後10時を回っているということもありました。また重慶は中国3大「火炉」として夏の暑さが有名な所ですが、日中は少し暑くても、朝

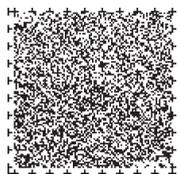
夕はかなり涼しく、幸いにも猛暑の日本を脱出できて快適な滞在となりました。帰国までに真夏日が解消されていれば申し分なかったのですが、思惑ははずれてしまいまことに残念でした。

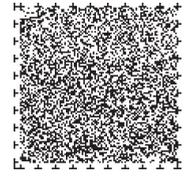


大雁塔の月



重慶・長江の埠頭





JICA補装具製作技術研修コース 研修員紹介

毎年、当センターで実施しているJICAの補装具製作技術研修を今年も9月17日から12月2日の予定で開始いたしました。本研修は5年ごとに見直しを行うのですが、本年度がその期間の最終年度となっており、これまでの集大成の年でもあります。今

回は3ヶ国3人が研修に参加しています。

研修員は本研修で学んだ技術、知識を帰国後に自国の義肢装具製作技術者や関係者に伝達することが任務であり、毎日、熱心に義足の製作研修を行っています。以下は3名の研修員の自己紹介です。

Nicolas Rojas Vasquez ニコラス・ロハス・バスケス (コロンビア)



私はニコラスです。初めに母国コロンビアについて簡単に紹介します。

コロンビアの首都ボゴタは国の中央に位置しており、山脈に接しています。国は4つの地域に分かれ、中央山脈地、カリブ海岸低地、太平洋低地と東部コロンビアです。2009年7月時点での人口は約4千367万人です。コロンビアは、人、文化、農業で知られていますが、近年は最高のコーヒー生産地としても有名です。一方で、コロンビアは対人地雷による深刻な被害を受ける人々に加えて、糖尿病などの疾病、交通事故やその他の原因により手や足を失う人々が増えています。このような人々は社会や仕事に戻るために義肢を必要としています。

私の家族を紹介します。父はボゴタで政府の農業エンジニアとして働いています。母は日本企業の富士通の工場で27年以上も働いていました。

兄は多国籍企業で石油関係のエンジニアとして働いています。

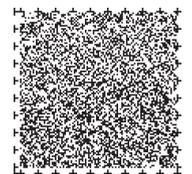
さて、私が義肢の世界に触れたきっかけは親戚の外科医の影響でした。

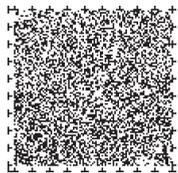
私はエルサルバドルにあるドン・ボスコ大学で義肢装具製作技術の学位をとりました。その間に1年間、シカゴのイリノイ他で脊椎と下肢に関する実務研修を受けてコロンビアに帰国し義肢装具製作の仕事に就きました。この後にアメリカのテキサスで2年間勤務しましたが、そこには障害があるラテンアメリカの人々が多数おり、母国語であるスペイン語でのコミュニケーションが重要でした。現在はボゴタの民間の義肢装具会社で働いています。

今回、JICAの研修コースに参加することで、コロンビアでの義肢装具の製作に必要な技術と原材料に関する知識を広げることができると思います。

リハビリテーションに関わる全ての人々は障害がある人たちを支えるために毎日努力をしていると思います。この紙面を借りて、今回日本で研修する機会を与えてくれたJICAと国立リハセンターに感謝の意を表したいと思います。

皆さんが美しい国コロンビアに来て下さることを歓迎いたします。





Collin Ivor Charles コリン・アイボー・チャールズ (ガイアナ)



こんにちは。私はコリンです。南アメリカ大陸の北東部に位置するガイアナから来ました。私の母国と私自身を皆さんに紹介することができて嬉しく思います。

ガイアナはイギリスの統治国であったため、英語を母国語としています。1966年5月26日にイギリスから独立しました。国旗は黄金の矢尻と呼ばれています。人口は約75万人で、人種はアフリカ系、東インド系、中国系、アメリカ原住民系、ヨーロッパ系、混合系の6つに分けられます。主な特産物は、米、砂糖、金です。ガイアナは95%が平原で海面より低い位置にあり、5つの町と3つの州があります。首都はジョージタウンで行政事務所が集中しています。ガイアナでは1970年2月23日に共和国になったの

を記念して、マシュラマニデーと呼ばれる祝賀のお祭りを行います。企業や施設などから人々がパレードを行い競います。

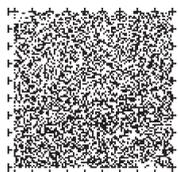
ガイアナでは1000人から1200人が障害がある人々で、その人数は年々増加しています。主に糖尿病や脳血管の障害によるものです。政府は障害がある人々の全てに資金支援を行っています。義肢装具の製作所は1ヶ所だけで、義肢装具製作の教育機関はありません。

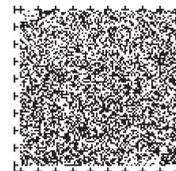
私自身の紹介をしましょう。年齢は38歳で、妻と娘が2人います。

私は大家族の出身で兄弟は9人います。現在は保健省が設立した国で唯一の義肢装具製作所で義肢装具を作っています。好きな食べ物は、炊いたご飯、豆、ココナッツミルク、牛肉や鶏肉を調理したものです。

趣味はクリケット、サッカー、ボクシングなどの運動と読書、音楽鑑賞です。

今回の研修では、国立リハセンターで使われている義肢の製作で私の国と違う技術を学び、義肢装具の質を高め、同僚にも伝達したいと考えています。





Phyu Ko ピューコ (ミャンマー)



私はミャンマーから来たピューコと申します。現在48歳です。私はマンダレー州のタウンジーという町に住んでいて高校まで通いました。

私は1982年から1年間、WHOの支援で行われたミャンマー国立リハビリテーション病院での研修を

受けました。30年近いキャリアがあり、部門のリーダーとして働いています。また国際赤十字 (ICRC) の協力で実施されたミャンマー国立リハビリテーション病院での下腿と大腿の研修コースにも参加しました。

私はマンダレー大学で史学を勉強しました。家族は妻と娘が一人います。妻も同じ大学の出身で高校の教師として働いています。娘は大学で経済学を学び、現在はマンダレー市開発委員会で事務の仕事をしています。

趣味は、読書、サッカー観戦ウォーキングです。研修で一生懸命学びたいと思っています。

